

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像 **積極的、主体的に学び続ける子・自ら学び、共に考える子**

令和8年度 重点目標 「心地よい学びがあふれる学校づくり」
●わくわくする心地よさ：知的好奇心を刺激し、子ども自身が「問い」をもち、主体的に解決していこうとする学びを実現する。
●安心できる心地よさ：すべての子どもたちにとって学校や教室が安心できる場となるよう、子どもたち一人一人が自分も他者も大切にしようとする心情の醸成を図る。
●達成する心地よさ：学習、生活場面の中で個人また集団での「できた」「わかった」体験を積み重ね、集団としての自尊感情を高める。

確かな学びの現状
過去2年間、国語科の「書く力」に特化し「主体的な学びに向かう児童を育てる授業づくり」を推進してきた。全国学調の課題改善に向け、「ことばのたからばこ」や「振り返りジャーナル」を活用した指導を継続。その結果、児童文芸誌「はとぶえ」の入賞数が倍増し、児童の書くことへの抵抗感も低減してきている。数値検証は今後の課題であるが、教職員の授業研究への意識向上も含め、着実な手応えを得ることができた。この2年間の成果を基盤に、令和8年度は組織的な取り組みをさらに深化させ、さらなる学力向上をめざす。

豊かな心・健やかな体の現状
昨年度までの取組の成果としておだやかに学校生活を送れる学校全体の空気が醸成されつつある。令和8年度は「心地よい学び」の基盤となる「安心できる心地よさ」の更なる高まりをめざす。特別支援教育の体制を強化し、一人ひとりの特性に応じた組織的支援を徹底するとともに、ルール遵守を「与えられるもの」から「児童主体の活動」へと転換し、自らよりよい集団を作る「わくわくする心地よさ」を育む。学力向上と学級経営を軸に、人権教育と生徒指導を一体化させ、保護者・地域との連携によるチーム力で、全ての子どもが活躍できる学校づくりを推進する。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～〇月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	基礎基本の定着	言語活動を重視し、基礎基本の定着を図る。	朝の学習(火・木・金)の時間の定着を図り、基礎・基本の力をつける取り組みを継続する。 金曜日は書くことに重点を置いた学習をする。 ●読書活動を推進する。 水は朝の読書タイムとし、学校全体で読書に取り組む。 ●家庭学習確立のための取り組み。	単元テスト(知識技能)90点以上	単元テスト	学期末			
	指導の工夫・改善	教職員研修を充実させ、児童の基礎的・基本的な知識や技能を活用して、問題を解決できる教職員の指導力の向上を図る。	●全学年で研究授業を行い、教職員同士の意見交流を深めながら、授業力をともに高め合う。 ●中・高学年の専科指導の導入により授業の質の向上、担任と個々の児童が十分に向き合える時間を確保する。 ●ICT機器を活用することで、児童が主体的に授業に取り組めるように指導する。 ●自力解決に率先して取り組むための支援を行う。	・読書ノートの読了状況の調査 ・堺市学調で「本が好きで、たくさんの本を読んでいる。」の項目→肯定70%以上 ・自主学習ノート活用状況 ・堺市学調で「自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の項目で堺市平均、もしくは前学年の結果を上回る。	・読書ノート ・堺市学調 ・自主学習ノート ・堺市学調	学期末 年度末 学期末 年度末			
豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	共に生きる意欲、共に学ぶ喜びを育てる。 ・ちがいを認め合い、互いに思いやる優しさを育てる。 ・差別を見抜き、差別をしない、させない子を育てる。 ・いじめ、暴力をしない、させない子を育てる。	総合的な学習の時間・生活科と人権教育とのかかわりを年間計画に位置付け、各学年の学習の流れに見直しを持たせる。	・年間指導計画を作成し、計画的に実施している。	年間指導計画	年度末			
			研修指導委員会を通して、困っている子どもを報告する機会を設け、月ごとの変化や成長を学校全体で共有する。	・配慮が必要な児童の実態を把握し、児童理解を深める。	毎月の研修指導委員会	毎学期			
			道徳の授業や人権教育をはじめ、普段の生活の中で、ちがいを認め合い、たがいに思いやる優しさを育てるために人権テーマを設定し、人権の講話や授業実践に取り組む。 ●(特別支援教育に関して) ・様々な課題や困難を抱える児童の特性や発達段階に応じた指導の工夫と、授業のユニバーサルデザインを推進する。 ・児童や保護者の困り感に寄り添い、教育相談を充実させる。	・(3～6年生)学校アンケートの「人の気持ちが分かる人になりたいと思いますか」という項目で、「当てはまる」という回答を90%以上にする。 ・児童のアセスメントを通して、具体的な支援・対応策を検討する。 ・職員一人ひとりのスキルアップをめざして、校内研修を実施する。	学校アンケート	年度末			
規範意識	学校のルールや集団行動を身に着ける。	日常の生活に関して ・あいさつの励行 ・帽子や名札の着用 ・チャイムを守る ・清掃指導の推進 ・いじめ事象の未然防止・早期発見・解決 ・集団行動指導の徹底(集合、整列、話を聞く姿勢)	・あいさつができる。 (あいさつレベルの設定、活用) ・チャイムで素早く行動ができる。 ・帽子を登下校時着用している。 ・名札を毎日必ず着用している。 ・積極的に掃除をしている。 ・いじめやいじめにつながりそうな事象を先生や保護者、友達に相談して解決している。	児童観察 生活の記録 アンケート 児童観察	随時 学期末 年度末				
健やかな体	健康づくりに関する意識	健康・安全について理解を深め、運動に親しませるとともに、体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。	保健に関して ・毎月の安全点検 ・児童に応じた安全指導 ・保健について啓発活動	・保健安全委員会を通して、安全面について考え、怪我・事故の防止に努める。 ・ほけんだよりや保健室前掲示を活用し、児童・職員への安全に対する意識を高める。	児童観察 安全点検表 保健室利用状況	随時 年度末			
			体育指導・体力向上に関して ・高学年体育専科による他学年への授業の実施 ・なわとびタイムの実施	・新体力テストの記録を比較(4月と2月に各学年1クラスを抽出し実施) ・なわとびタイムの参加状況	・新体力テスト ・児童観察	随時 年度末			

校長より(年度末)

学校関係者評価者から(年度末)